

---

# 創作物語 1

hikaru

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

創作物語1

### 【コード】

N0539BA

### 【作者名】

hikaru

### 【あらすじ】

記憶をなくしてしまった僕。

ひと夏の、記憶を取り戻すための冒険。

ここは・・・何処？

気が付くと僕は砂浜にいた。

前身はずぶ濡れだ。

それにしても暑い・・・

いったいここは何処なのだろう・・・

と思い、動いてみた。

立ち上がってみると、激しく頭痛がした。

『うづうづ・・・』

そのまま膝をついて砂浜に倒れこんだ。

それから数時間後、ふと目が覚めた。

『おお、目覚めたか。』

と男が優しい声で言った。

『誰？』

お礼を言う前に、そんなことが我先にと出てしまった。

『おいおい、命の恩人にそんな言いぐさはねーんじゃねーか？』

俺が砂浜を散歩してなきゃ今頃お前さんは仏さんだぜ』

『そつだ・・・あの時頭痛がして・・・』

と、つぶやいた。

男はそのつぶやきすら逃さず突っ込んできた。

『頭痛・・・？まあいいや。ところでお前さん、何者なんだ？』

『僕は・・・』

『ん？どうした？』

『なにも・・・思い出せない・・・』

『おいおい、それって記憶喪失ってやつじゃねーのか？』

と、男が驚いたような口調で言った。

『まあいいや。俺の名前はローカスだ。よろしくな』

男が自己紹介の後に手を差し伸べてきた。

『よろしくお願ひしま・・・』

グ~~~~~

お腹が鳴ってしまった。

一瞬たつて、ローカスから

『大爆笑』と言わんばかりの、笑い声が聞こえた。

『ハハハハそうかそうか、腹が減ってんだな。待ってる、今作ってきてやるからさ』

と厨房に入っていくローカス。

僕はベッドの上でお腹が鳴ったことに対しての恥ずかしさで、赤面していたがようやく脳に酸素がいきわたった

らしく、僕は試行錯誤を始めた。

（僕はいったい誰なんだ？なんであんな所に倒れていたんだろうか・・・）

と、考えているうちにローカスが厨房から出てきた。

『お待たせちゃん』

とローカスが持ってきたのは、シュペッツレと、コンソメスープだった。

『これは？』

と尋ねてみた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0539ba/>

---

創作物語 1

2012年1月1日02時47分発行